

カンボジア支援プロジェクト

2001年もカンボジア・コンポンスプー州の小学校建設を支援します！

「カンボジア」と聞いて何を連想しますか？おそらく「地雷、内戦、危険」、このようなマイナスイメージを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。人々との共同作業や交流、村での生活を通して、今まで一般的に抱いていたイメージとは明らかに異なる「カンボジア」に出会いました。今なお戦乱の傷跡・後遺症はあちこちで残っており、農作物では教育・衛生・社会基盤の整備がかなり遅れているという現状は一目瞭然でした。しかし、今、カンボジアは国際的な援助・諸活動に支えられ、一歩一歩着実に前進しています。そして何より、豊かな大自然の中、やさしくたくましい人々や無邪気で元気な子供たちの明るく笑顔でいっぱいでした。



一昨年のワークキャンプで建設した学校



ビニールテントの学校、ここに建設します

エチオピア難民マラソンランナーを日本へ！

2001年2月11日開催、東京国際マラソンに3人のエチオピア難民ランナーを招きます。昨年12月5日に開催された福岡国際マラソンに、エチオピア難民のアンバチャウを招きました。しかし、満足な練習ができなかったことから、はじめての国際大会で彼は完走することができませんでした。難民という身分ゆえに、出場を果たすまでには多くの障害にぶつかりました。彼の支援をはじめて知ったこと、それは、「難民」という立場がいかに弱いかということ、私たちに想像できないほどの屈辱や絶望感を味わっているということでした。

へる希望を失わず、夢の実現に向けて走りつづけるアンバチャウの姿には多くの勇気をもらいました。難民という困難な状況の中でスポーツ選手として前に進んでいくためには、身体能力だけでなく、強靱な精神力をも持ち合わせていなければ挫折してしまうことでしょ。

るとはいえませんが、自分たちで練習メニューを作り、でここのスラムの道をひたすら走り、懸命なトレーニングを積んでこれだけの記録を出してきているのです。自分自身の力を信じ、走り結果を出すことが目標に今も厳しい練習を続けています。

以上三つのプログラムはどれも、水や食料、医療などのような無くては死んでしまうような性質のものではありません。しかし、難民キャンプだからといって、生きていくのに必要最低限のものさえあればよいというわけでは決してありません。彼らは一人一人私たちが同じ人間で、私たち日本人がそうであるように、彼らもまた生きてい上で生きがいや希望が必要なのです。水や食料などのような最低限必要な部分ではないけれども、こうした「より良く」「より人間らしく」の部分が重要なもの確かです。

今度の東京国際マラソンには、アンバチャウだけでなく彼の仲間でも、同じエチオピアから難民として送れてきたラカウとデバサも招待する準備を進めています。3人のマラソン自己ベスト記録は、アンバチャウ2時間24分02秒、ラカウ2時間19分35秒、デバサ2時間18分18秒。ケニアでは難民という不利な立場にいる3人には、コーチについて練習するだけのお金はあります。食事に関しては、一流の選手に専属の栄養士がついて栄養管理されているのに比べたら、とても十分な栄養を取って

るとはいえませんが、自分たちで練習メニューを作り、でここのスラムの道をひたすら走り、懸命なトレーニングを積んでこれだけの記録を出してきているのです。自分自身の力を信じ、走り結果を出すことが目標に今も厳しい練習を続けています。

エチオピア難民ランナー支援

募金目標額 100万円

- ケニアアソシエーション 滝根 約70万円×3人=60万円
- 日本赤十字社 1日約7万円×滞在日約10日×3人=30万円
- 諸費用 10万円

お知らせ

- わかちあいプロジェクト例会 8月を除く毎月3日曜日、午後7時より例会を開いています。歓迎いたします。どうぞご出席ください。
- カンボジア学校建設ワークキャンプ参加者募集中 村人が主導となり、村人の労働奉仕により行われている学校建設作業に参加します。
- 期間：2001年 2月 19日(月)～ 3月 3日(土)
- 参加費：19万円(渡航費、現地滞在費、海外傷害保険料、アンコールワット観光費を含む)
- 参加者年齢：18歳～30歳
- 活動内容：カンボジア・コンポンスプー州での学校建設ワークキャンプ
- 応募方法：簡単な履歴書と参加動機(400字×3枚程度)を2001年2月1日までに下記の住所にお送りください。応募人数多数の場合は、書類選考させていただきます。
- 現地協力団体：ルーアル世界連盟 世界社(ルWS) カンボジア事務所

発行所 (〒2 国分府) わかちあいプロジェクト 130-0022 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話：03-3634-7809 FAX:03-3634-7808

編集者 松本 保 郵便振替口座： わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)

わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)

難民支援プロジェクト

3

誰も“生きがい”や“希望”が必要だ



カクマ難民キャンプ全景



左側 高村さん

だけ幸せであって欲しい」という思いもあります。難民キャンプにありながらも、子供たちが健康で日々の生活を単純に「楽しい」と思っておりながら、そんな環境をつくるのにこのプログラムを通して貢献できたと思っています。

以上三つのプログラムはどれも、水や食料、医療などのような無くては死んでしまうような性質のものではありません。しかし、難民キャンプだからといって、生きていくのに必要最低限のものさえあればよいというわけでは決してありません。彼らは一人一人私たちが同じ人間で、私たち日本人がそうであるように、彼らもまた生きてい上で生きがいや希望が必要なのです。水や食料などのような最低限必要な部分ではないけれども、こうした「より良く」「より人間らしく」の部分が重要なもの確かです。

ここカクマは非常に暑いです。最初ここに着いた時には「こんな所で仕事に対する気力を保っていきけるのかな」とも思いました。しかし、2ヶ月間ここで働いて思ったのは、彼らと一緒にいけば仕事でのモチベーションが下がるとはあり得ないということです。今後も目一杯働いて、限られた時間・限られたリソースの中で、できるだけ多くの人たちにできるだけ多くの利益が及ぶように努力していきたいと思っています。その「限られたリソース」をできるだけ大きなものにできるよう、どうか皆様からの支援をよろしくお願致します。

そしてもう一つはWeb Page Programです。これは、インターネット上に難民の人たちためのホームページを作ることによって、人々が自分たちのメッセージを世界の人々に伝えられるようにしようというものです。難民キャンプという閉ざされた環境での生活を余儀なくされている彼らにとって、外の世界へ向けて能動的に何かを伝えるという機会はずっとありません。そんな彼らがホームページを持つことによって、世界の人々に彼らの思いをダイレクトに伝えられる、というのがこのプログラムの根底にある願いです。また、すべての援助は「知ること」から始まります。このホームページを通して、より多くの理解者を得られたら、とも思っています。

三つ目のプログラムは、Sports Programです。ここカクマでは、既にオランダオリンピック委員会(NOC)がSports Programを支援しています。しかし、NOCがすべての分野を十分にカバーできているわけではありません。そしてその一つが、陸上競技です。わかちあいプロジェクトは、昨年のことですが、エチオピア難民ランナー、アンバチャウ・アバチが福岡国際マラソンに参加するのを支援した経験があります。今回のSports Program支援では、キャンプ内で陸上競技(特にトラック種目)に参加する機会をつくり、こうしたトップアスリート支援へとつなげていく作業を行っていきたくと思っています。これまでの2ヶ月間、このプログラムに携わってきましたが、普段からランニングが好きな私でさえも、「この人たちは何でこんなに“走る”が好きなんだろう」と思ってしまうほど彼らの“走り”に対する思いは熱いものがあります。しかし、スポーツとして彼らが走るには、シューズ・技術・施設・栄養など多くの問題を克服しなければなりません。そして、それを支えるのが私の仕事になります。

また、Sports Programではもう一つ特別なターゲットがあります。それは、子供たちです。カクマには学校はありますが、そこでの体育は目だけのものになってしまっています。また、日本の“部活”のようなものもありません。そこで、学校を中心として、子供たちのスポーツ活動を充実させたいと考えています。子供たちは、彼ら難民が祖国へ帰れる日が来たときにその再建を担っていく重要な存在です。また、何があっても「子供たち

2001年カクマ支援プロジェクト 募金目標金額 500万円

- コミュニケーションセンター建設、スポーツなど 250万円
- 高村派遣費用 180万円
- 現地スタッフ人件費、事務費 70万円